

社会福祉法人 上越老人福祉協会

平成23年度 事業実施状況報告

役員会説明資料（概要版）



## 社会福祉法人上越老人福祉協会事業実施状況活動報告

### 1. 全体評価

#### (1) 新たな組織による法人経営

今年度6月より、再編された本部組織により法人経営に取り組んだ。事業・情報管理部会、組織管理部会、財務管理部会が各資源管理を行い、各部会ごとに専門部会を設置し課題別具体的に検討を進めた。法人の課題は常任理事会において方向性を取りまとめ毎週実施される理事長との協議、理事会への提案につなげている。決定事項は施設長・事務長会議に報告し周知を図った。

#### (2) 経営状況

経常収入合計 2,278,579,675 円、経常支出合計 2,088,300,335 円、経常活動資金収支差額 190,279,340 円（対経常収入比率 8.3%）、当期資金収支差額合計 117,455,446 円（対経常収入比率 5.2%）と堅調であった。いなほ園、高田の郷、新光園共に経年劣化による修繕費が嵩んだが、高利用率の確保、重度化による報酬増などの収入増が安定経営につながった。

#### (3) 新たな事業展開

平成22年度より計画を進めてきた「グループホーム百寿の家」は、平成23年11月30日に完成し、同年12月10日に内覧会・竣工式を実施後、事業開始した。

旧石田眼科医院を総合的な福祉館として整備する目的により、つくしの里医療福祉協会と合同により平成25年4月事業開始を目指して事業計画を進めている。新光園、いなほ園デイサービスセンターの定員増の変更をして事業の効率的な運営を図った。

#### (4) その他

南相馬市、福島市など東日本大震災による被災者を4名受け入れた。また、長岡市に開設された福祉避難所へ5日間延べ5名の職員を派遣、日用品など物資の送付、募金活動に協力した。

年間を通して節電に取り組み、対前年比 181,305kwh（7.7%）を削減した。

### 2. 法人本部（各管理部会）

#### (1) 事業・情報管理部会

##### ① 重点目標への取り組み

- ・ 事業展開では、12月に法人4ヶ所目のグループホーム百寿の家を開設した。旧石田眼科医院を新たな福祉事業に活用するため、3月に地元説明会を開催し次年度開設に向けた取り組みを進めている。
- ・ 介護保険改正には、対策委員会を設置し国が示した基準や改正内容を精査し、事業内容の変更や報酬改定による経営への影響を分析し必要な対策に取り組んだ。また、利用者、家族に改正内容の説明を行った。

##### ② 各委員会活動

- ・ 危機管理委員会では、自然災害を含む想定される危機に対し法人として「危機管理計画」を策定し、体制整備や基本方針を定めた。各施設においても、この計画を活用した「危機管理計画」を策定した。

- ・ 情報管理委員会では、情報管理の整備として、法人の HP をリニューアルした上、ブログ機能を備え、運用管理内規を策定し適切に更新、発信できる体制を整備した。

## (2) 組織管理部会

### ①重点目標への取り組み

- ・ 法人内事業所の組織バランスや職員育成、サービス加算の獲得など法人経営の安定を異動のコンセプトとして、新設事業「GH 百寿の家」の人事案や定期異動案の検討・作成を行った。
- ・ 赤字事業である居宅介護支援事業所の経営改善、また重複経費の削減、業務の効率化、職員の育成体制確立を目指して、3カ所に点在する居宅介護支援事業所の統合化について検討し常任理事会に提案した。

### ②各委員会活動

- ・ 職種別連絡会では、平成 23 年度の法人組織が新編成となり顧問制廃止後のシステムを明確にした。各職種別連絡会代表者で構成する委員長会議（年 3 回定期開催）を設置し、法人の意志伝達と活動の共有・調整を図った。
- ・ 職場環境改善委員会では、メンタル不調者の早期発見と労働環境状況の把握が出来るよう、メンタルヘルスシートを活用し管理者に繋がるラインケアのシステムづくりを行った。
- ・ 研修委員会では、3月11日の東日本大震災後の法人年度研修として本部より企画提案あり、法人全職員で「いのち」について考える全体研修を実施した。

## (3) 財務管理部会

### ①重点目標への取り組み

- ・ 法人の安定的な経営を持続するため、今後 10 年間の「大規模修繕積立計画」「建設資金返済積立計画」「新設施設資金積立計画」等の資金計画を策定した。今後は、この資金計画に沿って計画的な資金の運営を図りたい。

### ②各委員会活動

- ・ スケールメリットを生かした法人単位の取引は、引き続き既存の契約を見直しながら計画的に実施した。
- ・ 月次決算を分析活用し、法人全体の経営の効率化を図りながら年間の収益確保に努めた。

## 3. 各事業（各委託事業含む）

### (1) いなほ園グループ

- ・ 特養 98%、短期入所 103%、デイサービス（一般型）90%、みのりの家 99%、グループホームなかよし寿の家 99%、宝寿 99%、百寿 92%の利用率であった。
- ・ 11月30日、窒息による死亡事故が発生した。再発予防に向けては理事長の助言を受けながら、食事アセスメントの導入、食事提供体制の見直し、高齢者の摂食障害とリスクなどの教育等、多方面から取り組みをおこ

なった。

- ・ 前年度に実施した第三者評価の結果を基に、1年をかけてサービスの見直しに取り組む。特に環境整備については清掃の徹底と実施記録の導入、マニュアル化を早期から取りかかり標準的なサービスとして行えるようになった。
- ・ 医療ケアの実施に向けた介護職員への研修を計画的に行った。

#### (2) 新光園グループ

- ・ 特養 97%、短期入所 90%、デイサービス 78%の利用率であった。
- ・ 7月よりデイサービス30名へと定員変更を行った。年度内では高利用率をコンスタントに維持することは出来なかったが、曜日によっては利用ニーズに応じていくことが出来た。
- ・ 新入職員研修、定期実施の全体研修を計画的に進めた。また、エルダー制の継続や介護職員においてはグループでの研修に取り組んだ。
- ・ 上越市より緊急ショート1床を受託し、年間30名の利用受入を行った。

#### (3) 高田の郷グループ

- ・ 老健 92%、通所リハ 80%、グループホーム敬寿 98%、楽・らく寿の里 93%の利用率であった。
- ・ 他職種小グループ編成により研究テーマを定め、業務向上に主体的に取り組む、サービス向上につなげている。課題として、在宅復帰率の推進、長期化傾向に伴い、在宅復帰への支援強化や医学的な健康管理のルール化が挙げられる。
- ・ PT領域のリハビリが定着したことから、利用者のリハビリニーズに応えるサービスができた。
- ・ 園芸福祉士養成講座の受入れを実施した。次年度具体的に展開していく。

#### (4) 軽費老人ホーム

- ・ 千寿園は、13名入所、15名退所であった。要介護認定者に関しては、ケアマネジャーや他のサービス事業者と連携して千寿園での生活が続けられるように支援できた。退去された方々にも家族と協力して次の施設等への移行ができた。
- ・ ケアハウス上越は、7名入所、6名退所であった。認知症や精神疾患の基礎知識を理解するため積極的に研修情報を提供し職員の受講につなげた。その後復命伝達会を開催し全体の理解に向けた取り組みを促した。

#### (5) 各種委託事業

- ・ 新潟県認知症介護実務者研修、上越市地域包括支援センター(高田の郷、新光園)、上越地域認知症相談センターの各事業を実施、概要は資料のとおりである。

## 【各事業】

- いなほ園グループ
- 新光園グループ
- 高田の郷グループ
- 千寿園
- ケアハウス上越

## 【運営状況】

- 利用率           ○要介護状況           ○リスク管理
- 職員採用・退職状況・有資格状況

## 【各種委託事業】

- 上越市地域包括支援センター
- 上越地域認知症相談センター
- 新潟県認知症研修事業

平成23年度 事業報告

	事業名	収支状況	事業実施状況(主に重点目標に対する報告)	その他(特記事項)
い な ほ 園 グ ル ー プ	特養 実績/目標 98.4/96.5	介護保険収入 11,000千円増額 主な要因は利用率が目標値より1.9%上回ったことと、大震災による被災者の短期入所受入れを長期的に行ったため。 支出については修繕費が前年比で15,000千円増額する。主には厨房修繕10,000千円と他、経年劣化による修繕をおこなったため。当期活動収支差額については昨年比で52,000千円回復し、20,000千円となる。	・前年度に実施した第三者評価の結果を基に、1年をかけてサービスの見直しに取り組む。特に環境整備については清掃の徹底と実施記録の導入、マニュアル化を早期から取りかかり標準的なサービスとして行えるようになった。また、残された課題(防臭対策、清潔・不潔の区分け)については、次年度に新たな委員会を設置取り組むこととなった。利用者の意向をサービスに取り入れる仕組みづくりについては、入浴の日や時間、環境などについて定期的に意向確認する場を設けサービスに取り入れた。・人材育成については医療ケアの実施に向けた介護職員への研修を計画的に行った。実習生の受入れ指針とマニュアルづくりについては、完成までには至らなかったが、新たに設けた実習担当者会議は定期的に開催され、ある程度系統的な受け入れが行えた。	・11月30日、窒息による死亡事故が発生した。再発予防に向けては理事長の助言を受けながら、食事アセスメントの導入、食事提供体制の見直し、高齢者の摂食障害とリスクなどの教育など多方面から取り組みをおこなった。次年度も引き続き、教育と高リスク食品のアセスメントをおこない再発を予防していくこととなった。 ・感染症の発生予防のため、1年を通じて教育と衛生管理を徹底した。予防接種等の効果もあり、未然に防ぐことができた。
	短期入所 103 / 99	介護保険収入 6,000千円増額 主な要因は利用率が目標値より4%上回ったことが主である。 支出については人件費の自然増と修繕費の増加による影響あり。当期活動収支差額は昨年比で4,800千円増加し、10,000千円となる。	・年度中期に利用率が上昇したことにより、提供サービスの質の低下がみられた。下期は利用調整を図り、改善を図った。全職員で節約について客観的に把握できるよう現状評価を数値化し、定例会議で確認するようにした。細かな所で効果が見られた。	・他施設との交流研修を計画していたが未実施となった。次年度に行えるよう計画立てる。
	通所介護 90.0/90.0 50.7/40.0	介護保険収入 7,500千円増額 主な要因は利用率の上昇であり、目標値を上回った。支出は人件費が大きく下回ったため、総額で380千円減となる。 当期活動収支差額は前年比8,000千円増額し、16,500千円となる。	・上期より準備、10月の自己及び利用者評価、12月の訪問調査を経て第三者評価を受審終了した。結果を基に改善のスケジュール化をおこない、次年度以降の見直しに繋げる仕組みができた。 ・1月から利用者定員の変更をおこなった。事前準備が滞りなく行われたことにより、利用者を始め関係機関に影響を与えることなく行えたことは良かった。また、定員増により利用者数の増加と収入増につながり効果がすぐに現れたことも評価される。	・医療面と認知症ケアについて、在宅支援を考えるための研修など実施し、職員個々のスキルアップを図った。また、中途採用職員へは定期的な面談を基に抱える課題を明らかにした上で、指導をおこなった。これらにより職員全体のレベルアップだけでなく、職員組織の強化に繋がった。
	居宅	介護保険収入 2,600千円の減となる。要因は体制変更に伴い職員1名を減にした影響によるもの。支出についても同様に24,000千円の減となる。当期活動収支差額は536円となる。	・1年を通じて、給付管理数は一定に保たれた。また、ケアマネジメント技術の向上を図るため各種研修会への参加や法人内連絡会へ積極的に参加した。	・在宅複合施設の一部として通所、短期事業のSWと連携を図り総合的な在宅支援をすることができた。また、居宅として事業者のサービスに対する意見を述べる機会を設け、居宅サービスの質の向上につながったことも評価される。
	GHなかよし 99.0/98.0	介護保険収入 7,000千円の増加。支出は人件費減と事務費増が相殺、事業費420千円の増となる。 当期活動収支差額は前年比で若干減となり4,800千円となった。	・普段の様子観察から疾病の予防と変化の早期発見に努め、大きな状態悪化に繋がらないようにした。また、必要に応じて支援方法の見直しをおこない、カンファレンスの上、職員が同一の関わりができるようにした。・月1回を目安に外出や棟内行事をおこない、気分転換や楽しみを感じることで、精神の安定を図った。	・1月にインフルエンザが棟内で発生、蔓延し職員2名と利用者3名が感染した。初動の遅れが蔓延の原因であり、多くの課題が挙げられる。次年度の発生、蔓延防止に繋がれるため、検証後に詳細を整理した。
	GH宝寿 98.6 / 98.0	介護保険収入 前年とほぼ同様。支出についてもほぼ前年同様となり、当期活動収支差額は前年度比327千円増の4,370千円となった。	・サービスの質を高めるため、法人内他グループホームと合同により新人職員を対象とし5回の研修を開催した。その他、待機者管理についても4グループホーム共同で行うことにより安定期な利用者の確保に繋げることができた。	・地域との連携強化を図った。避難訓練については地域住民からも参加いただき相互協力について考える機会となった。その他、広報誌を活用しての情報発信をおこなうなど、理解を深める機会を設けることで、顔見知りの関係づくりに取り組みをおこなった。
	GH百寿 91.6/98.0	12月10日開所から月末までに満床となる。その後、体調不良により入院、退去も発生したが速やかな入所を行えた。収入、支出については当初予定通りの結果となった。	・ケアマネジメントを通じて利用者の理解と効果的なケアの提供方法、実施のためのスキルアップなど関連付けながら、サービス全体の組み立てをおこなった。それにより早期に標準的なサービスを提供することができた。また、早い段階で2回の運営推進会議を開催し、地域住民を始め行政、家族などの意見を聞くことができ、自己のサービスを確認することができたことも、今後活かされる。	・やちほ地区住民との関係づくりのため町内会会合に積極的に参加し説明、理解を図った。その他広報誌の発行や、利用者の様々な活動を通じて周知を図り関係づくりをおこなった。
	CHみのり 99.0/98.0	事業費収入は前年度比41千円の増額。 支出は人件費の自然増と厨房工事による給食費の増加、他により昨年比450千円増加する。当期活動収支差額は1,000千円の減となった。	・体調変化や医療ニーズが発生した場合については、他職種の協力を得ながら変化に応じた生活支援をすることができた。また、必要な時は、個別で面談をおこない精神面の安定を図った。 ・行事については利用者の意向を伺い計画、実施をした。それにより参加者の増加に繋がったことは良かった。 ・安全防災の取組みとして緊急時の避難マニュアルの定期的な読み合わせとそれによる実際の訓練をおこなう。なかなかマニュアル通りの行動が取れないことと、新たな問題の拾い出しができたことなど、効果を得ることができた。	・身元引受人、緊急連絡先の再確認をおこなう。疎遠になっている家族についてはこちらから連絡を取り近況を知らせるだけでなく、情報の共有を図った。 ・個別支援会議ではサービスの内容確認だけでなく、終末時の意向確認や家族の意向についても確認し、緊急対応の繋げる情報を取り入れるようにした。

	事業名	収支状況	事業実施状況(主に重点目標に対する報告)	その他(特記事項)
新 光 園 グ ル ー プ	特養 実績/目標 96.9 / 97	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険・利用料収入はほぼ前年並み。</li> <li>人件費 155,674千円(前年比△1,553千円)</li> <li>年度内の退職、産休による欠員と事業間の按分の見直しによるもの。</li> </ul> 新光園グループ全体に関する項目 <ul style="list-style-type: none"> <li>修繕費 6,949千円(前年比+2,965千円)</li> <li>建物設備関係で経年劣化による修繕が多く発生。</li> <li>新光園全体で水道光熱費は前年比△1,016千円となったが、電気、ガスはともに1ヶ月位の使用量を削減できたものの、料金単価の上昇でほとんど金額面では削減額は出なかった。</li> </ul>	1、標準化されたサービス管理と高品質サービスの追求 <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の状態に応じた基本ケアをチームで実施できるよう「段階的ケア指標」を職種協働で作成し、利用者の現状確認やケアの方向性について活用を開始した。フロアの特性を踏まえたケア提供を行った。(看取りケア充実に向けての振り返り、フロア別運動会など)</li> <li>看護、介護のケア協働による医療行為研修を、対象職員ほぼ終了した。</li> <li>利用者、家族へのサービス満足度調査を実施した。</li> </ul> 2、人材育成と組織体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>新入職員研修、定期実施の全体研修を計画的に進めた。また、エルダー制の継続や介護職員においてはグループでの研修に取り組んだ。</li> <li>委員会、行事のリーダーとなり、創り上げていく経験から担当職員の成長がみられた。</li> </ul> 3、地域への福祉貢献と防災協力体制 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域との防災体制構築の一環として、町内会役員と各々の体制の現状について確認し合った。次年度、マニュアル整備も含め諸行動を明確にしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職員全体会議で、利用者との関わりで生じる職員リスクについて、その内容と基本的対処方法について学習した。(特定職員に対する利用者の性的言動などに対して職員で学びの場を持った)</li> <li>夏祭りではPR活動に力を入れ、当日30名の学生ボランティアと、隣接町内から沢山の参加者を迎えることができた。</li> <li>新光園広報を年3回発行し、内容に関しご意見・感想を頂く機会が増えた。</li> <li>4月看護職員の退職により5・6月看護体制の加算が不可となるも、7月に1名採用が決り算定が可能となった。</li> </ul>
	短期入所 90.4 / 88	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険収入 65,626千円(前年比+5,359千円)</li> <li>うち1,200千円は上越市緊急ショートステイを新たに受託したもの。</li> <li>南相馬市からの被災者を定員外で受け入れを行った。</li> </ul>	1、個別サービスの充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者のカンファレンスや個別サービス検討を具体的にすすめることが出来なかった。今後、サービス計画書の作成やモニタリング実施の体制づくりが課題である。</li> </ul> 2、施設機能を活かしたサービスの提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>定期利用者の状態変化に対し、フロア特性を活かしたサービスの検討を行った。</li> <li>緊急ショートでは、様々な条件下で情報が限られることあり、職員への対応指示も不明確となることがあった。(市より情報提供表の作成について提案あり)今年度のプラスの実践を分析・評価しながら今後のサービスに繋げていくが大切である。</li> </ul> 3、職員体制の機能化 <ul style="list-style-type: none"> <li>出向、退職に伴う介護リーダー、相談員の交代により新体制づくりに苦慮したが、後半は介護職員の欠員補充により徐々に体制固めができ、担当職員でサービスの充実に向け検討の機会を持つことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上越市より緊急ショート1床を受託し、年間30名の利用受入を行った。</li> </ul>
	通所介護 78.3 / 87	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険収入 64,258千円(前年比△727千円)</li> <li>延べ利用者数 23年度8,465名 22年度8,653名 前年比2.2%減</li> </ul>	1、定員増(28名から30名)への取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>7月より30名へと定員変更を行った。年度内では高利用率をコンスタントに維持することは出来なかったが、曜日によっては利用ニーズに応じていくことが出来た。</li> </ul> 2、求められるサービスへの体制整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>10月利用者、家族を対象に提供サービスに関するアンケートを実施した。意見中、介護教室開催の希望の声も聞かれ今後検討である。</li> <li>H24年度改正への動きでは、いなほ園DSと確認を取りながら進めたが、県説明後短期間で検討すべき課題が集中する状況みられた。DS職員間では取り組みへの意志統一は図られ諸検討が進められている。</li> </ul> 3、職員の資質向上とサービスの質の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>職員体制に関しては大きな変動なく維持してきたが、職員より「業務への慣れ」を反省する意見が聞かれ、会議にて話し合いの機会を持った。また「自分が受けたいサービス」に視点を置き話し合い、具体化へと進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月、DS隣接厨房からの出火を想定し、DS利用者を対象に避難訓練を実施した。</li> </ul>
	居宅	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険収入 13,687千円(前年比△1,154千円)</li> <li>1名産休のため12月より特定事業所加算Ⅱの算定終了。</li> </ul>	1、計画的な研修参加と知識の共有化 <ul style="list-style-type: none"> <li>法人内研修、地域包括支援センター主催の研修会への参加の他、個々のスキルアップのため、研修会に参加し利用者家族への相談支援に活かした。</li> </ul> 2、利用者が地域で安心して生活するために、他職種(医療機関、サービス事業所)との連携を強化する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>退院時の病院カンファレンスの参加、また随時必要な時にサービス担当者会議を開催し、他職種との連携を図った。</li> </ul>	



	事業名	収支状況	事業実施状況(主に重点目標に対する報告)	その他(特記事項)
高田の郷グループ	老人保健施設 実績/目標 91.7/94.0	①収入 前年比5,628千円減額、予定外の入院退所が多く、穴埋めが追いつかず利用率が2.0%下がった。 ②支出 前年比3,734千円増額、大規模な修繕が発生した。 ③収支差額 前年比9,362千円の大幅な減収となった。	(利用者の個性と選択に責任を持つ) 利用者及び家族意向がケアプランに反映され、サービスメニューの提供と選択に取り組めた。 (認知症ケアの専門性を高める) 認知症、精神疾患の理解を深める研修を実施するが実践には課題が残った。 (多様なリハビリテーションの提供) リハビリ体制の充実から段階的なサービスが提供できた。PT採用に伴い、メニューの多様化と利用者ニーズへの対応が適切に行えた。 (施設機能の活用・安心できる生活支援) 他職種小グループ編成により研究テーマを定め、業務向上に主体的に取り組めたことは評価したい。今後も継続しサービス向上につながる期待が大きい。課題として、在宅復帰率の推進、長期化傾向に伴い、在宅復帰への支援強化や医学的な健康管理のルール化が挙げられる。 (地域貢献) 地域公開講座を計画通り2回開催できた。内容と開催方法についてアンケートを元に工夫した企画が好評を得た。今後の継続にも手ごたえを感じた。	・4月下旬にノロ感染症が発生したが、適切な対応により蔓延せず5月12日全面解除できた。委員会による啓発研修や新採用研修及び情報提供による注意喚起が効果を上げた。 ・大震災により防災対策の見直しの必然性が高まった。水害行動規程を新たに定めたが、実践に移せていない。地域との連携については、避難協力内容を変更したことで施設への関心が高まった。 ・春先の多数の退職者の穴埋めに苦心した。新採用も育成できず適性が見極めと指導内容の見直しが迫られた。求人が厳しい現状から、適性が見極め、指導内容について再考し、計画性を持って確保したい。 ・園芸福祉士養成講座の受入れを実施した。次年度具体的に展開していく。
	通所リハ 実績/目標 80.0/75.0	①収入 前年比14,259千円増額、1人当たりの利用回数が増えたこと、曜日の偏りがなくなったことで利用率が5.0%あがった。 ②支出 前年比1,295千円減額、看護職員の補充ができず、介護職員を充てたことにより人件費が下がった。 ③収支差額 前年比15,554千円の増収となった。	・利用率の増加に伴い選択レクが滞る日もあった。特定曜日ではあるがアンケートによる実施が好評だったことから個別、選択の重要性を学んだ。 ・退院前のカンファに多く関わり、在宅復帰に向けた目的を掲げサービスに反映できた。 ・PT領域のリハビリが定着したことから、利用者のリハビリニーズに応えるサービスができた。	・併設施設と入浴設備を共用しているため、日常的に時間的な制約があり、更に感染症発生時に利用制限が生じるリスクを抱えている。短期的な対応に加え、長期的な視野に立ち、設備整備等の対応を考えたい。
	居宅支援	①収入 前年比425千円減額、年度途中で職員の異動があり、管理者数を上限まで上げられなかった。 ②支出 前年比543千円減額、異動により給与差額が生じた。 ③収支差額 前年比118千円の増収となった。	・自立支援に向けた取り組みができた。隔月のミニ事例検討会は、プラン再考の気づきにつながっている。 ・老健入所などにより、冬期において給付管理数が減少した。	・施設入所に係る契約解除等に関するルール化とその実効性について、今一度検討する。
	GH敬寿 実績/目標 98.4/100 共用DS 73.1/67.0	①収入 前年比832千円増額、退所の空床も限定的であったため利用率も若干上がった。通所も同様。 ②支出 前年比311千円減額、前年の修繕費との差額が要因。 ③収支差額 前年比1,143千円の増収となった。	・日常の行動や動作から機能維持にも繋がりに支援した。身体機能維持や低下予防に繋がるように体操や歩行運動を継続した。利用者毎に機能維持や低下予防に繋がる事を視野に入れながら動作や活動を勧め、全員で体操と歩行運動を毎日実施した。 ・共用型通所介護では、利用時間を柔軟な対応とした。家族の送迎時間が柔軟に対応できることで、安心した在宅介護に繋がられた。	・3年未満の職員を対象に、認知症研修に参加。年間を通し研修、復命することでケアの専門性を高めている。
	楽・らく寿の里 実績/目標 93.4/100	①収入 前年比2,758千円減額、利用者の体調不良により実績が上がらず、利用率も若干下がった。 ②支出 前年比1,521千円減額、職員の欠員による人件費減、食材費の削減効果が出た。 ③収支差額 前年比1,237千円の減収となった。	個々の有する能力に応じ、作業を行い、やりがいと達成感を感じていただく。「雑巾寄付」という目的を持ち、作業に取り組む。らく寿でのご利用を生活の延長と捉える支援を考慮する。中庭の園芸、野菜作りを行い、来所の楽しみとする。できる方には雑巾を縫っていただき、持てる力を発揮していただく。また、筋力低下予防、健康維持を考えリハビリ、レクにも配慮を行う。誰でも気軽に来所し相談ができる事業所を目指す。研修、ボランティア依頼等地域の方からの依頼あり受ける。城北中学校、城西中学校、高田商業の研修を受け入れる。	・3年未満の職員を対象に、認知症研修に参加。年間を通し研修、復命することでケアの専門性を高めている。

軽費・ケアハウスグループ	事業名	収支状況	事業実施状況(主に重点目標に対する報告)	その他(特記事項)
	千寿園 実績/目標 87.0/96.0	<p>本年度は、利用率低迷による利用料の減収や大規模な修繕(屋上防水工事、玄関の暖房用ファンコイルの交換等)のため800万円ほどの赤字となった。</p> <p>施設が30年を超え、退居後の居室の修繕等にも出費が嵩んだ結果である。</p> <p>入居者獲得に関しては、今年度13人の新規入居があったが、15人の退居があり、利用率が低迷してしまった。</p>	<p>・安定的な施設経営に関しては、利用率が87%と低迷したため、大きな収入減となってしまったため、目標の達成はできなかった。ただ、新入居者は年間13名と順調なのだが、退居者が15名も出てしまったことが問題である。</p> <p>・高品質なサービスの提供に関しては、苦情や事故はなく、適切なサービス提供ができたと考えられる。それに要介護認定者に関しても、ケアマネや他のサービス事業者と連携して千寿園での生活が続けられるように支援できた。退去された方々にも家族と協力して次の施設等への移行ができたので大きな問題はなかったと考えている。</p> <p>・家族・地域との連携に関しては、千寿園だよりを4回発行し、家族、地域、関係機関に送付し連携を図った。町内会とは、町内行事等の参加によって連携を深める努力を継続して行った。</p>	<p>・利用率低迷に関して、主な原因は退居者の増加にあると考えている。入居者獲得についてはここ数年10名前後とコンスタントに確保できているが、入居希望の方がすでに、軽度の認知症・知的障がい・精神障がい、何らかの依存症をお持ちの方が大半で、自立した生活を送れる方では既になという問題がある。そのため、入居期間が短くなってしまっている。それに、入居期間が10年を超える方々が高齢化重度化し退居が重なってしまったことにも一因がある。</p> <p>・今後として、軽費の単独施設では現在の入居希望者の状況を考えると、満室にするのは難しいのではないかと。何らかの介護サービスの付帯を検討する必要があると思う。</p>
	事業名	収支状況	事業実施状況(主に重点目標に対する報告)	その他(特記事項)
	ケアハウス 上越 実績/目標 98.9/97.0	<p>①収入 前年とほぼ同様に推移した。外泊等に伴う食費の減額分が多く計上され生活費は前年比約△300千円の減収となっている。</p> <p>②支出 前年比△1500千円で事務費では約△830千円、事業費で△760千円の減少であった。修繕費は前年同様、設備や備品の経年劣化がすみ予算を飛び超える支出となったが、前年比△640千円と減少。給食費は天候が安定した関係で前年比約△500千円、水道光熱費は節電の効果から約△350千円削減されている。</p> <p>③事業活動収支差額 利用率の安定と経費削減により前年同様堅調である。</p>	<p>①安定的事業経営 ・入居7名、退居6名で動きはあったが年間平均利用率は高率で推移した。前期に比較的迅速に空床を補充できたことが要因であるが後期は苦戦した。</p> <p>・後期は待機者の実態調査を行い確実性がある方だけの人数に改め、さらに冬季間のみの利用も検討して問い合わせや依頼に対処した。(年度末現在4名)</p> <p>②高品質サービス提供 ・担当者会議に参加しサービス提供者との情報共有を意識して行った。また会議内容はシステムを活用し職員にも共有出来るようにした。</p> <p>・認知症や精神疾患の基礎知識を理解するため積極的に研修情報を提供し職員の受講につなげた。その後復命伝達会を開催し全体の理解に向けた取り組みを促した。</p> <p>③地域交流 ・町内会から当施設の防災訓練へ参加していただいた。また町内主催の防災訓練にも入居者と共に参加し町内の災害時の行動をつかんだ。</p> <p>・長生会活動に積極的に参加される入居者が増加したため職員のサポートを適宜行い意欲に応えた。</p>	<p>①各種点検、修繕について ・館内設備居室設備、厨房機器の点検を定期的に行い欠損箇所の早期発見・修繕に努めた。</p> <p>・とりわけ居室給湯器、電気錠、居室セキュリティ回路の不具合が多発した。部品が供給出来る限り修理で対応していく方向性であるが将来的なプランは定まっていない。</p>

(資料集)

【利用率】

①入所系

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	97.8	97.7	98.0	97.7	98.4	97.2	99.6	98.6	98.4	99.4	98.7	99.2	98.4	96.5
新光園	96.8	96.3	94.1	96.6	97.6	98.5	96.1	97.7	96.2	95.0	98.6	99.8	96.9	97.0
高田の郷	90.1	91.4	90.1	95.1	93.5	90.3	90.1	92.2	94.8	90.9	91.0	91.3	91.7	94.0

②在宅系(ショートステイ)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	96.3	105.2	107.8	107.4	107.7	111.3	106.1	99.2	96.1	103.2	101.0	102.0	103.6	99.9
新光園	80.7	90.8	88.0	93.6	93.7	95.8	90.0	88.8	91.5	89.5	94.1	86.5	90.5	88.0

③在宅系(デイサービス・通所リハビリ)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園(一般)	94.5	96.9	97.6	97.4	95.8	99.1	94.8	94.3	95.9	70.5	72.4	71.1	90.0	90.0
いなほ園(認知型)	45.3	47.4	43.7	47.4	50.0	48.6	44.8	48.0	19.3	57.4	55.8	71.1	50.7	40.0
新光園	84.4	86.1	86.6	78.3	76.3	74.7	74.5	74.7	75.4	76.1	75.3	79.9	78.5	87.0
高田の郷	73.6	79.0	81.4	85.9	80.7	83.1	86.3	86.2	80.0	66.2	71.0	80.3	79.5	75.0
敬寿(認知型)	73.3	81.7	84.4	81.7	83.9	84.4	74.2	48.9	73.1	79.6	51.7	60.2	73.1	67.0

④軽費・ケアハウス

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
千寿園	88.0	86.0	84.0	84.0	86.0	88.0	86.0	86.0	90.0	88.0	84.0	86.0	87.0	96.0
ケア上越	100.0	96.7	100.0	100.0	100.0	98.8	100.0	97.9	96.9	98.2	98.1	100.0	98.9	97.0
みのりの家	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	93.9	93.7	100.0	100.0	100.0	100.0	99.0	100.0

⑤グループホーム、小規模多機能型居宅

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
敬寿	95.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	93.5	95.6	95.7	100.0	100.0	100.0	98.4	100.0
なかよし寿	94.9	99.1	98.8	100.0	99.2	98.4	99.4	100.0	99.8	98.7	100.0	100.0	99.0	99.0
宝寿	100.0	100.0	100.0	100.0	98.6	100.0	100.0	100.0	87.8	96.4	100.0	100.0	98.6	99.0
らく寿	90.9	86.3	86.3	90.9	90.9	100.0	100.0	95.0	95.0	100.0	95.0	90.0	93.4	100.0
百寿									81.5	87.5	97.3	100.0	91.6	

⑥居宅介護支援事業(介護給付管理数)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	66.0	65.0	65.0	66.0	66.0	63.0	65.0	66.0	68.0	67.0	64.0	68.0	65.8	70.0
新光園	86.0	81.0	81.0	84.0	91.0	93.0	85.0	82.0	64.0	67.0	66.0	70.0	79.0	90.0
高田の郷	71.0	68.0	79.0	77.0	76.0	71.0	69.0	65.0	65.0	62.0	62.0	61.0	68.8	70.0

【要介護状況】

3月末日現在

事業所	要支援1.2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均
いなほ園		1	13	29	40	52	4.0
新光園		4	3	18	15	20	3.7
高田の郷		3	16	25	28	12	3.4
いなほss	1	3	18	15	17	27	3.6
新光園ss	0	3	4	4	5	2	2.9
いなほDS	12	11	14	19	16	13	3.0
新光園DS	23	16	16	13	12	7	2.1
通所リハビリ	27	10	32	16	18	8	2.0
千寿園	2	5	6	1	0	0	
CH上越	8	7	5	0	1	0	
みのりの家	5	5	0	0	0	0	
敬寿	0	2	2	3	2	0	2.5
なかよし寿	0	2	4	8	4	0	2.8
宝寿	0	2	2	4	1	0	2.4
らく寿	4	5	7	3	3	0	1.8
百寿	0	6	6	5	1	0	2.1

【リスク管理】

①事故発生状況

	いなほ園	新光園	高田の郷	いなほSS	新光園SS	いなほDS	新光園DS	高田の郷DC	千寿園	CH上越	みのりの家	敬寿	なかよし寿	宝寿	らく寿	百寿
死亡	1															
入院	1		1		1	1							1			
受診	13	5	6	5		1					1		1	2		

②苦情受け付け状況

	いなほ園	新光園	高田の郷	いなほSS	新光園SS	いなほDS	新光園DS	高田の郷DC	千寿園	CH上越	みのりの家	敬寿	なかよし寿	宝寿	らく寿	百寿
ケア内容	2		5		1	1		1								
職員対応	1	2	2													
利用料																
制度																
その他			8					1								

【職員採用・退職状況】

	正職員		臨時職員	
	22年度	23年度	22年度	23年度
採用	4	17	23	51
退職	3	13	15	34

【職員有資格状況】

資格名	22年度	23年度
社会福祉士	13	15
介護福祉士	84	158
介護支援専門員	40	51

## 【各種委託事業】

### 1. 上越市地域包括支援センター（高田の郷、新光園）

#### (1) 総合相談、実態把握業務

内容	相談者延べ数	介護保や介護方法、悩み	医療、健康関係	生活、経済、法律等	介護保外福祉サービス	権利擁護	実態把握
件数(月平均)	665	601	211	109	55	13	92

#### (2) 地域の支援ネットワーク

地域ネットワーク会議	地域ネットワーク作り支援	認知症サポーター養成講座	介護支援専門員事例研究会
35回	2回	2回	4回

#### (3) 介護予防事業

予防給付数件数(月平均)	330	内委託件数	191

### 2. 上越地域認知症相談センター（高田の郷）

啓発活動			相談		
施設関係	一般住民	計	面接	電話	計
8回 (215人)	8回 (435人)	16回 (650人)	29回	10回	39回

### 3. 新潟県認知症介護実務者研修

研修名称	第1回実践者研修	第2回実践者研修	管理者研修	新潟県小規模多機能型計画作成研修	新潟市小規模多機能型計画作成研修
研修月日	6月20・21・28日・2・30日 計5日間 報告会1日	10月20・21・26・27・28日 計5日間 報告会1日	12月1日～2日	10月6日～7日	平成24年2月7日～8日
受講者数	54名	54名	32名	30名	25名